

【第10回仙台スポーツリレートーク】報告

2011年7月29日(金) 19時～21時



仙台市産業・情報プラザ セミナールーム1B

参加者 15名

テーマ 「仙台・宮城スポーツの今

～ スポーツを支える活動」

フリーライター

小林 健志 氏

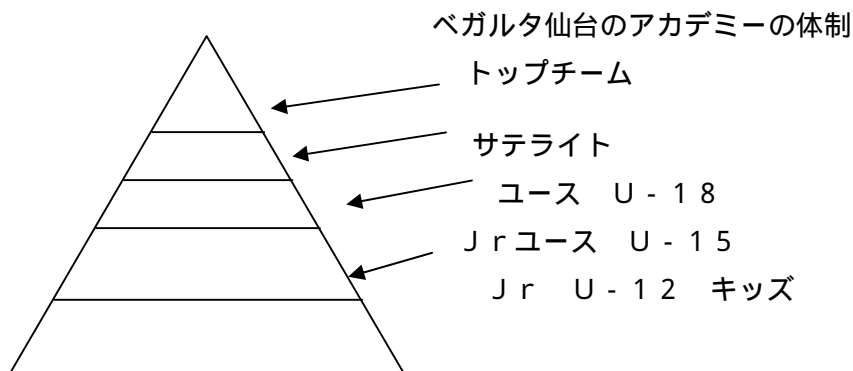
自己紹介

こんばんは、ライターの小林健志と申します。プランメル仙台時代からのサポーターで1999年ごろからはベガルタ仙台の下部組織もみてきました。2006年からフリーライターとして現在はホームゲームで販売されているV-PRESSの試合の見所や、チームの公式ホームページの育成（アカデミー）のニュース、河北新聞や河北ウィークリーのコラムなどで、Jr・Jrユース・ユースからトップチームまで取材しています。

ベガルタの成績と課題

ここまでのベガルタ仙台の成績ですが、開幕から12戦負けなしと震災を乗り越えなければという強い意識と、効果的な補強により現在も（8月25日段階）J1最少失点を記録、リーグ7位という成績です。その背景には監督と強化との関係が非常にいいことや、チーム生え抜きともいえる関口選手の日本代表入りがチームの他の選手にとってもいい刺激になっていることがありました。夏場の7月には9戦勝ちなしと苦戦も経験しましたが当初の目標であるヒトケタ代の目標は達成可能な状況にあります。

今後の課題としては、アカデミー（下部組織）からのトップで活躍する選手の輩出がクラブの継続的な発展のためには大切になります。



ベガルタ仙台ユースの実績として現在チームの特別指定選手となっている奥野選手がいます。アカデミーの近年大きくかわろうとしており、Jr創設以降全日本少年サッカー大会で2年連続して決勝トーナメントに進出しているほか、JrユースでもJr出身者が活躍しています。それは個の技術レベルが向上した結果であり、そこには経験豊富な指導者の加入が要因となっています。



ユース年代の強化が課題

課題はユース年代の強化であり、現状は4年連続トップへの昇格者がいないこと、各種大会でも苦戦が続いています。こうした状況に対して今年度は経験豊富な元日本代表選手である越後さんが監督に就任、一緒に寮に住み込み寮生の生活面のケアと精神的な教育に努めているほか、専任スカウトを設置し他県の優秀な選手の獲得に力を入れています。監督の持つネットワークを活用して関東以西への遠征も強化され新たなスポンサーも獲得しました。越後監督はチーム改革として常に厳しさを求め関東などのチームに常に勝つことを目標としています。そのためには、Jr年代をより強化し、基本技術を徹底して指導するとともに、チームだけではなく宮城県全体のレベルアップのために、普及活動や指導者の講習会も重要としています。

こうした様々な取組の結果将来的にはユースの継続的な強化をすすめ、プロになることを目標として意識させていくとともに、JrやJrユースの強化もはかることとなります。

最後に

最後にみなさんにもお願いがあります。このような取組にはどうしても時間がかかります。ですから早急に結果を求めず、勝敗に限らず子どもたちの頑張りをたたえたり、対戦相手を尊重することやJrからユースまでトータルな視点で評価していくことが大切になります。ぜひ多くの試合でポジティブな応援をしていただきたいと思います。

